

研究主題 よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす特別活動

I 研究の目的

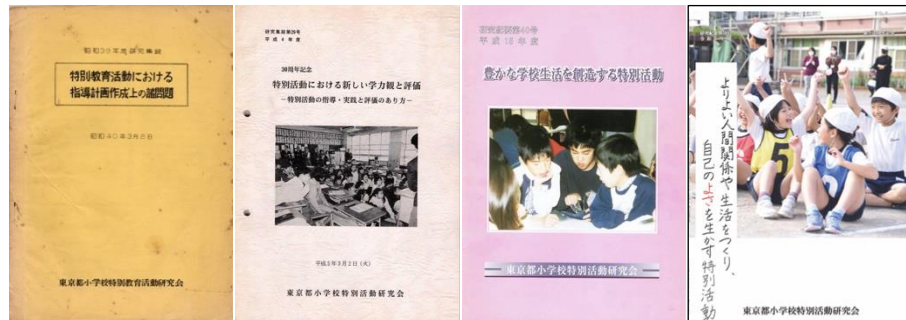
1 特別活動の指導方法の研究

本研究会は、東京都教育委員会の研究推進団体として、昭和37年の設立以来、特別活動の研究・発展に努めてきた。

学級活動部、児童会活動部、クラブ活動部、学校行事部の4研究部会で構成され、それぞれの研究部会ごとに研究授業を行い、より質の高い、実践的な特別活動の授業のあり方を追究し、その成果を研究発表大会や研究紀要で発信してきた。

2 特別活動のよさを広める

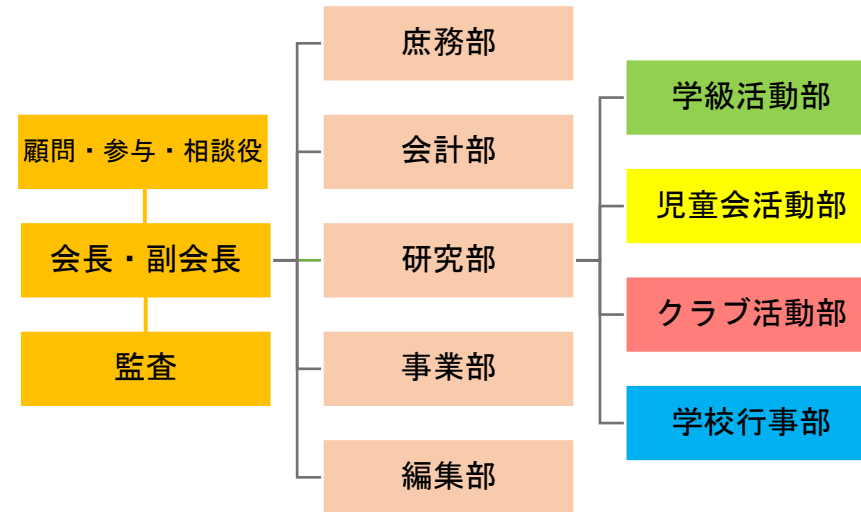
本会は、その時代の要請に即した特別活動の指導方法を東京都の教員に示し、そのよさを広めてきた。昨年度、創立60周年を迎えた本会の歩みは、昭和39年度の第1号発行以来、毎年発行している研究紀要に記されている。本会ホームページ (<https://tosho-tokkatsu.tokyo>) より、第1号以降の研究紀要(欠号あり)を閲覧・ダウンロードできる。



第1号 昭和39年度 第30号 平成5年度 第40号 平成15年度 第59号 令和4年度

II 研究の方法

1 研究組織 部員は有志の東京都の小学校教員で構成されている。



2 研究授業による検証

本研究会の特色は、4つの研究部会(学級活動部・児童会活動部・クラブ活動部・学校行事部)が、共通の研究主題の下、仮説・主題に迫る手だてを「研究授業」を通して検証し、その成果・課題を次年度の研究につなぐ形で積み重ねてきたことにある。

新型コロナウイルス感染症の流行期は、「研究授業」を行うことができなかったが、令和3年度より感染防止に努めながら、「研究授業」を再開し、今年度は、各研究部会が2回の「研究授業」を実施した。

Ⅲ 研究の内容

1 研究主題

よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす特別活動

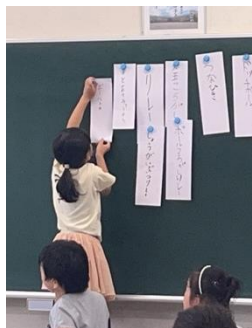
2 主題設定について

特別活動において育成することを
目指す資質・能力は、3つの視点（人
間関係形成、社会参画、自己実現）を
手掛かりとしながら育んでいくこと
が求められている。また、その3つの
視点は切り離せない相互関係にある
ことから、令和2年度より研究主題を
「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす特別活動」と
修正し、3つの視点を関連させながら、学級活動・児童会活動・クラブ
活動・学校行事において研究を深めてきた。



3 研究計画

- (1) 令和元年度…仮説に基づく授業実践
○各活動、学校行事における「自己実現」を明確にし、共通理解を図る。
 - (2) 令和2年度…理論構築
○1年目の研究を踏まえ3つの視点を関連付け、育成する資質・能力について共通理解を図る。
 - (3) 令和3年度…理論・仮説の検証（1年目）
 - (4) 令和4年度…理論・仮説の検証（2年目）
 - (5) 令和5年度…理論・仮説の検証（3年目）
- この研究主題による研究の最終年度である。
○理論・仮説の検証のための研究授業を実施する。
○汎用性、再現性のある指導方法を提案する。



Ⅳ 成果と課題

1 成果

- 4研究部会において、目指す児童像を「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つの視点で設定することで、そのための手だてとの関連が明確になり、手だてによる児童の変容を見取りやすくなった。
- ICT 機器の活用により、効率的な意見集約、活動のめあての共有化など、授業の質を高めることができた。
- 各研究部会において、手だての汎化を目指すことで、より洗練された汎用性のある手だてへと改善を重ねることができた。

2 課題

- (1) より汎用性のある手だての提案
本研究会は、特別活動の指導方法の研究し、広く東京都の教員に伝え、指導の改善を促すことが使命の一つである。この研究主題における研究の最終年度であることから、誰もが取り組み、成果を上げることができる、より一般化・汎用性のある手だての提案を行う。
- (2) 来年度の研究主題の作成
今年度の研究をまとめながら、来年度以降の研究主題の設定を行う。次期教育振興基本計画等を参考にし、これからの時代に求められる特別活動のあり方について、議論を重ね、研究主題を作成する。

〈連絡先〉

代表者	団体名	東京都小学校特別活動研究会
	所属	世田谷区立芦花小学校
	職・氏名	校長 石田 孝士
事務局 〈庶務部〉	電話	03-3303-3301
	所属	大田区立おなづか小学校
	職・氏名	校長 酒井 敬子
	電話	03-3753-2615
ホームページ	https://tosho-tokkatsu.tokyo	
メール	info@tosho-tokkatsu.tokyo	